



Taka Ishii

Gallery

1-3-2 5F Kiyosumi Koto-ku Tokyo #135-0024, Japan
tel 03 5646 6050
fax 03 3642 3067
web www.takaishiigallery.com
email tig@takaishiigallery.com

マリオ・ガルシア・トレス 「Unspoken Dailies」

Mario Garcia Torres “Unspoken Dailies”

2009年11月21日(土) ～ 12月12日(土)

オープニング・レセプション： 11月21日(土) 18:00 – 20:00

タカ・イシイギャラリーは、ロサンゼルスを拠点に活動するマリオ・ガルシア・トレスの国内2回目となる個展を開催いたします。タカ・イシイギャラリーでの初個展となる今回、ガルシア・トレスはフィルム作品 「Unspoken Dailies」 を発表いたします。

「Unspoken Dailies」 は、数年前に作家自身がまとめたカンファレンス・エッセイ（特定のテーマについて話あう会議に参加するにあたり、自説をまとめた小論）を基に脚本化し、最終的にフィルム化された作品です。同作品は、時間、沈黙、語られない言葉、忘れられた事柄についての習作です。

リアルタイム（編集による手を加えずに）で66分間にわたり撮影された本作は、メキシコ俳優ディエゴ・ルナ〔主な出演作品：「Milk」（2008年）、「Mister Lonely」（2006年）、「Y tu mama tambien」（2001年）〕が、カメラが回る前で初めて目を通す脚本を読む、という作品です。彼の口からは何も語られませんが、「Unspoken Dailies」の劇中からは、多くのことが明らかとなります。映像が進むにつれ、本作品は俳優のテストショット、撮影場所となったメキシコシティの音声による描写、そして現実の時間と劇中の時間についての考察となるのです。

歴史やコンセプチュアル・アートの過去の試みを再検討するための手段として、ガルシア・トレスは写真、フィルム、パフォーマンス、「printed intervention」（印刷物などにテキストを書き加えて意味を付加する表現方法）にとどまらず、多種多様なメディアの可能性を追求しています。一見したところ客観的な表現方法をとっているように見える、コンセプチュアル・アートの情報としての美しさを逆にとり、ガルシア・トレスは記憶や理解の間の相違を明確化し、さらにはそれを利用することにより、現在我々が直面する課題についての懸念を表明しているのです。

他の作品同様、「Unspoken Dailies」は過去の先達によるアート作品をその起点としています。会議の脚本化は、コンセプチュアル・アートにおける暗示の有用性・可能性を強く示唆しており、

その傾向は **Bas Jan Ader** の作品中に顕著に見て取れます。会議は物語へ転換するに留まらず、撮影の課程を通してそのアイデアそのものが再構成されるのです。

個展「**Unspoken Dailies**」は本作品の制作に関連する様々な素材とともに展示されます。また、フィルム作品の撮影は **Alexis Zabé** [主な撮影作品：「**Temporada de patos**」(2004年)、「**Silent Light**」(2007年)] 担当し、オリジナル楽曲を **Alejandro Rosso** (オルタナティブ・ロックグループ「**Plastilina Mosh**」のメンバー) が提供します。

ガルシア・トレスの代表的な作品として、「**I Promise Every Time**」(ART@AGNES、東京、2007年)が挙げられます。この作品は国内において初めて展示されたガルシア・トレスの作品であり、ホテルの部屋にいる際に、常に「約束をする」一人の作家の物語です。歌やその歌詞が書かれた紙によって、その物語が語られます。

「**Il aurait bien pu le promettre aussi (He might as well have promised it)**」(ジュウ・ドゥ・ポウム、パリ、2009年)は、東京滞在中に作家が撮影した写真と、字幕作成スタジオにて同じく作家が撮影した写真を交互に投影するスライド・ショー作品です。作家は、外国映画を翻訳することによって生じる言葉の差異など、イメージの影に潜む物語を浮かび上がらせます。

1975年にメキシコ・モンクローバに生まれたガルシア・トレスは、2005年に **California Institute of the Arts** を卒業。近年の個展としては、**CCA** ワット・インスティテュート現代美術館 (サンフランシスコ、2009年)、カリフォルニア大学 **Berkeley Art Museum & Pacific Film Archive** (2009年)、ジュウ・ドゥ・ポウム (パリ、2009年)、**Kunsthalle Zurich** (2008年)、**Stedelijk Museum** (アムステルダム、2007年)、**Kadist Art Foundation** (パリ、2007年 アーティスト・イン・レジデンス・プログラムとして参加) などが挙げられます。

またガルシア・トレスは、「横浜トリエンナーレ 2008」、「第52回ヴェネツィア・ビエンナーレ」(2007年)、シカゴ現代美術館でのグループ展「**Escultura Social**」(2007年)、テート・モダンでのグループ展「**Learn to Read**」と「**Saturday Live Action & Interruptions**」(ロンドン、2007年)、**Artist's Space** での「**Elephant Cemetery**」(ニューヨーク、2007年)、などにも参加し、2007年のフリーズ・アートフェアにおいては、カルティエ・アワードを受賞しています。

「**Unspoken Dailies**」は個展期間中に、1日に3回の上映を予定しています(13:00, 15:00, 18:00)。11月21日(土) オープニング・レセプション当日は、18:10からの上映を予定しております。

タカ・イシイギャラリー 展覧会担当：上松エリサ プレス担当：増山貴之
〒135-0024 東京都江東区清澄 1-3-2 5F tel: 03-5646-6050 fax: 03-3642-3067
e-mail: tig@takaishiigallery.com website: www.takaishiigallery.com
営業時間：12:00-19:00 定休日：日・月・祝祭日



Mario Garcia Torres
“Unspoken Dailies”, 2003-2009
16mm black and white film, 66 min.



Mario Garcia Torres
“Unspoken Dailies”, 2003-2009
16mm black and white film, 66 min.



Mario Garcia Torres & Mario Lopez Landa
“I Promise Every Time”
Installation view at Agnes Art Fair, Jan 11 -13,
2008



Mario Garcia Torres
“Il aurait bien pu le promettre aussi (He might
as well have promised it)” 2009
Black and White slides
Courtesy Taka Ishii Gallery, Jan Mot,
Brussels and White Cube, London



Mario Garcia Torres
“Il aurait bien pu le promettre aussi (He might
as well have promised it)” 2009
Black and White slides
Courtesy Taka Ishii Gallery, Jan Mot,
Brussels and White Cube, London

